

平成22年6月25日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2008

課題番号：18206065

研究課題名（和文） 都市アイデアの生成と変容に関する空間論的研究

研究課題名（英文） A Spatial Study on Formation and Transformation of Urban Idea

研究代表者

伊藤 毅（ITO TAKESHI）

東京大学・大学院工学系研究科・教授

研究者番号：20168355

研究成果の概要：

都市アイデアの生成と変容に関する調査研究として、①フランス南西部バステード調査、および②ベトナム・フエ調査を実施した。①はフランス南西部におよそ300分布する中世新都市バステードのなかでとくに重要と思われる30都市を踏査し、さらにそのなかで都市アイデアの生成の局面が明確にわかるソヴテール・ド・ルエルグ、モンフランカン、モンパジエの3都市を詳細に検討し、その成果は2009年8月伊藤毅編『バステードーフランス中世新都市と建築』（中央公論美術出版）として公表した。②は19世紀初頭に建設されたフエの都城および周辺集落を対象とした調査で、伝統的なベトナムの流域居住と近代に導入された古代中国を都市アイデアの変容過程が明らかになった。この成果が現在出版物として準備中である。また都市アイデアの総論的な成果として吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市1アイデア』（東京大学出版会）および『伝統都市2権力とヘゲモニー』を2010年5月に刊行した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2007年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008年度	8,700,000	2,610,000	11,310,000
年度			
年度			
総計	22,700,000	6,810,000	29,510,000

研究分野：

科研費の分科・細目：建築学・歴史意匠

キーワード：都市アイデア、都市インフラ、バステード、フエ

1. 研究開始当初の背景

都市を成立させ、変容させる原動力はさまざまに想定できるが、都市の構成やかたちなどに表象されるアイデア的な側面は未検討の段階にあった。この概念を深く検討することは今後の都市史研究の展開のために不可欠で

あると考えられた。

2. 研究の目的

本研究は都市アイデアの生成と変容を空間論的に構築するための基礎的な考察を行うことが目的であり、具体的な調査対象を分析す

るなかから「都市アイデア」の諸相を浮かびあがらせることを目指した。

3. 研究の方法

都市アイデアに切り込むための分析視角として、①時間、②地域、③図像を設定する。それにもとづき、古代の都市コスモロジーが消滅し、中世入って変容する都市の姿をバスタードという特異な都市群から考察する（①古代から中世、②英仏争奪地域、③グリッド都市）。もうひとつの対象はベトナム・フエであり、近代に復古的に成立する都城のあり方から都市アイデアの理想的側面と伝統によって拘束される部分との相克をみる。ここでひろく都市史の方法として「都市アイデア」と呼ぼうとするのは、概略ほぼ以下のものである。都市における社会の「入れ物」としての目に見える空間構造物、これを根源的・全体的に、あるいは部分的に規定するのは、都市の創造者・企画者・建設者—共同体や国家、経営体—の意図だったり、生活者—支配者から奴隷や下層民まで—の理念や観念、意識だったり、と、きわめて雑多である。こうして、都市という空間構造物がかたちづくられるとき、個々の人間や社会の意識・行動様式などが、都市空間を規定する場合に、それぞれの要素を微小のものを含め「都市アイデア」と総称したい。このように都市アイデアの射程を広く設定すると、以下のような新たな視角がひろがる。

(1) ユートピア論の再考：従来の都市論におけるユートピアは現実の都市から乖離した特殊で夢想的な想像物の系譜としてひとつの研究ジャンルを形成してきたが、都市アイデア論はこうしたユートピアを特別なものとして区別しない。むしろ現実の都市社会との連関のなかで再考することが可能になる。

(2) 顕在的アイデアと潜在的アイデア：都市

アイデアは単一であり明瞭であればあるほど、意識的であり顕在的なものとして可視化されるが、むしろ複数の雑多なアイデアが無意識下に重畳し交錯するのが現実の都市といえる。こうした潜在的なアイデアにも注意を払うことによって、都市社会の多様性を別のかたちで叙述できるだろう。潜在的で無意識下に積層されるアイデアには集合的な都市の記憶も重要な役割を果たす [港千尋 一九九六]。

(3) 都市の時代と地域：都市が時間軸のなかで変節を遂げる。時代の移行期におけるアイデアの変化や同時代であっても地域ごとに個性の異なるアイデアが存在することを確認する作業は、都市の通時態と共時態を新たな観点から見直すことにつながる。さらにアイデアの歴史的拘束性を個々の事実に即して丁寧に確認することによって、時代の特質はもとより地域の特性を再考することができる。とくに都市の移行期はアイデアの生成・変成・消滅という新しい視角が有効に機能することになる。

都市は人間の社会が創出した最も古くから存在する通時的な構造物である。言い換えれば、歴史時代に到達して以来、人間社会は、つねに都市を随伴してきたといえる。そこでは時代や地域を超え、当該社会におけるあらゆる非在地社会的な要素、すなわち都市性が凝集しており、また実際には複層的な内容を持つが、一見単一にみえる構造物が目に見える形で凝固する。こうした構造物＝都市の特質を解析するうえで、まずその目に見える表層において、都市構造解析のための重要な手がかりを与えるのが都市アイデアであり、さらに目にみえない都市の深層へと分析を誘導する手がかりもそこにある。

4. 研究成果

3年間の調査研究から得られた知見はきわめて豊富であり、これらを論文・書籍として公表してきた。主な研究成果として、中世バスタードからは都市中央部に割り出された矩形の広場は西欧広場の原点ともいべき位置づけがえられ、それは交易の場であり、公的な儀式も執り行われる都市共同体にとって不可欠な要素といえることができる。またグリッド状の都市形態は宅地分譲という都市アイデアとともに、集住のための仕組みを図像的表現であった。フエは古代中国都城をモデルとしているが都城が南北軸に必ずしもしたがわず香河沿いの伝統集落に近い存在形態をしている。また皇城は中国で一般的な北欠型をとらず河に面した南側におかれたのも、理念的な都市アイデアを伝統都市アイデアに置き換えて採用した結果といえることができる。またフエは19世紀という近代に入ってから新規に建設された都市であったため、都市の防備についてはフランス・ヴォーバン式の稜堡を使っている。ベトナム最後の王朝であったグエン朝は、アイデアとしては正統なる中国の都城をひとつの理想と掲げながらも、他方において近代的都市防御、大砲の設置など実際的かつ合理的な性格が顕著である。またフエには都城内に当初成立したと推定される官僚住宅はベトナムの伝統的な風水思想にもとづくガーデン・ハウスの系譜をくむものであるが、20世紀に入ってから華人のショップ・ハウスを影響をうけながらも独自の発展をとげた町屋型住宅が成立する。フエの町屋型住宅はハノイやホイアンにみられる町屋とは異なり、伝統的なガーデン・ハウスの変異形とみなすことができる。これもまた都市アイデアの観点から理解することが可能である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5件)

- ・伊藤毅「中世新都市バスタードをめぐって」『年報都市史研究 14-都市と権力と社会=空間』山川出版社 2006年11月
- ・伊藤毅・鈴木博之・吉田伸之・増谷秀樹「現代都市類型をめぐって—ラウンドテーブルの記録」『年報都市史研究 16—現代都市類型の創出』山川出版社 2009年2月
- ・北村優季「長岡平安遷都の史的背景—首都立地論の試み(律令国家転換期の王権と都市(論考編))」『国立歴史民俗博物館研究報告』134号 PP137-154 2007年3月
- ・高村雅彦「継承されるアイデア(III 北京2008, <特集>OLYMPIC・CITY)」『建築雑誌』

123(1578) 2008年7月

・松本裕「差異とメディア:場所と対話」(前編) CASABELLA JAPAN 2008年3月
[学会発表] (計 12件)

・Takeshi Ito et.al. City and Architecture in Hue 1-9", International Conference on East Asian Architectural Culture, Tainan 2009

・吉田伸之「山里の分節構造: 南信濃清内路村を事例として」(日本史部会, 第一〇六回史学会大会報告) 2009年1月

・吉田伸之「日本近世の地域史・論の視座から」(2008年度歴史学研究会大会報告 新自由主義の時代と現代歴史学の課題—その同時代史的検証)— (全体会 新自由主義の時代と現代歴史学の課題—その同時代史的検証) 2008年10月

・高村雅彦「台湾における日本統治時代の公設市場建築に関する研究—近代アジアを巡る都市建築のアイデア」(2006年度[日本民俗建築学会]大会研究発表論文・報告(岩手大会統編)) 民俗建築 (131), 35-42, 2007-05

[図書] (計 6件)

・伊藤毅編『バスタード—フランス中世新都市と建築』(中央公論美術出版, 2009年8月)

・鈴木博之+東京大学建築学科編『近代建築論講義』(東京大学出版会, 2009年10月)

・吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市1アイデア』(東京大学出版会, 2010年5月)

・吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市2権力とヘゲモニー』(東京大学出版会, 2010年5月)

・近藤和彦・伊藤毅編『江戸とロンドン』(山川出版社, 2007年)

・伊藤毅『町屋と町並み』(山川出版社, 2007年)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 毅 (ITO TAKESHI)

東京大学・大学院工学系研究科・教授

研究者番号: 20168355

(2) 研究分担者

吉田 伸之 (YOSHIDA NOBUYUKI)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号: 40092374

鈴木 博之 (SUZUKI HIROYUKI)
東京大学・大学院工学系研究科・教授
研究者番号：00011221

北村 優季 (KITAMURA YUUKI)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：20177869

高村 雅彦 (TAKAMURA MASAHIKO)
法政大学・工学部・准教授
研究者番号：80343614

松本 裕 (MATSUMOTO YUTAKA)
大阪産業大学・工学部・講師
研究者番号：20268246